

■便潜血反応検査

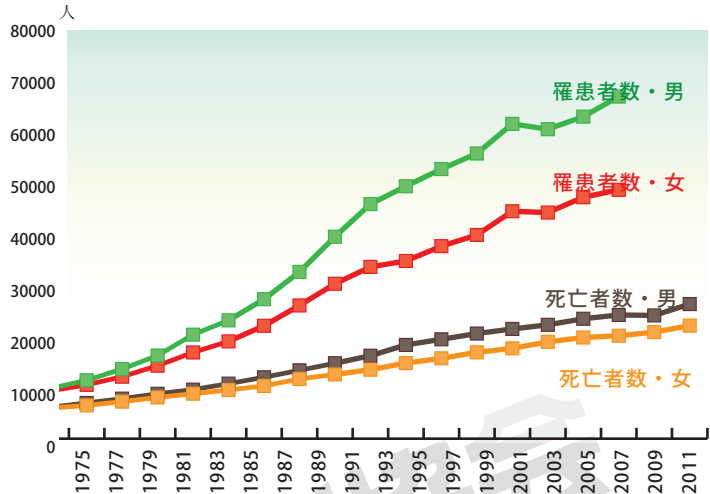
糞便中に含まれる微量の血液（ヒトヘモグロビン）の有無を調べる便潜血反応検査は、大腸がん検診のスクリーニングとして実施されています。これまでの多くの研究から、便潜血反応検査による大腸がん検診は、早期発見そして死亡率の減少に有効であることが証明されています。

近年、大腸がんにかかると人は増え続けており、女性において死亡原因のトップとなっています。男性では死亡原因の第3位で、2015年には第1位になると予想されています。特に岩手県は大腸がんの死亡率が全国第4位と高いのですが、この事はあまり知られていません。

検査方法

大腸がんは持続的に出血しているとは限らないので、2日間の便を1セットとして実施します。採取方法は簡単で痛みもありません。

表1 年別・性別大腸がん罹患患者数及び死亡者数の推移



国立がん研究センターがん対策情報センターより

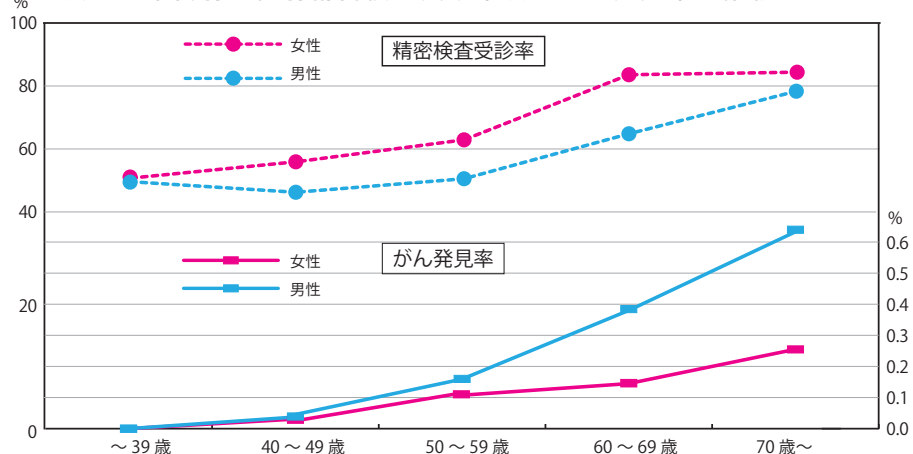
■もし、陽性になったら…

表2は、平成22年度当協会における大腸がん検診の実施状況です。89,860人のうち約5%の方が陽性（要精密検査）となりました。実際に精密検査を受けた方は58.6%の2,632人、そしてがんが発見された方は全体の0.14%となる130人でした。このことから、精密検査を受診されなかった1,859人の中にも大腸がんが潜在している可能性があるといえます。

もし、陽性となった場合には、**早期発見・早期治療のために精密検査を受診しましょう。**

検査人数 89,860人
要精密検査者数 4,491人 (全体の5.0%)
要精密検査受診者数 2,632人 (受診率58.6%)
大腸がん発見数 130人
大腸がん発見率 0.14%

表2 年代別・性別精密検査受診率及びがん発見率の推移



公益財団法人岩手県予防医学協会発行 「平成23年度事業年報第41号」より